#### 「うしらせ」の仕組み

- 1 牛の顎下に 牛端末 を装着し、 牛の姿勢を監視
- (2) 起立困難状態が発生した際に、 うしらせ基地局 が感知
- 3 警告表示を うしらせアプリ に通知します

※通知を受け取ったユーザーは牛舎に行き牛の介護を行います。



写真.牛端末を装着した牛。採食も問題なし



発見できる事は、 ないのも大きな特長だ。このように労働時間を削減 つける事で倒れている牛を起こし、 事故率も低減するなど複数のメリットが アプリから通知が来た時に農場へ駆け 起こした後の牛へのダメージが少 本システムで転倒した牛を早期に 決まって夜中の また出荷が近い25~26カ月齢 事故を防ぐ事が 見回りを行って

### なっている。 の牛がいる場合は、 の死亡は0となった。 いたが、導入後は深夜0時以降の見回りがほぼ0と





写真. 牛端末装着期間は23カ月齢~出荷 (28カ月齢) まで



## ても警告は届くため、農場に戻って牛を起こせば事 故死を防ぐ事ができるのだ。

起立困難状態にあると基地局が感知し、 フォンに入れた「うしらせ」のアプリにアラ 「うしらせ」のアラ 設定した時間より長く牛が横になったままだと、 夜間であっても、 牛舎から離れてい

スマ

# 導入により突然死が減少

A静岡経済連は静岡県内7カ所に和牛肥育

然死(心不全)だったが、 本システムの導入を決意した。 夜の見回りを実施したものの、 突然死が起こっていた。当然、 朝農場に行った際、 連のブランド牛「静岡そだち」として販売している。 県内外から和牛素牛を導入・肥育後、 委託農場を持っている。各農場の飼養頭数規模は する突然死への対応は難しかったという。これらの り収入が減少、 くなるうえに、深夜に見回りを行っても明け方発生 これまで肥育途中で死亡していた牛の約7割が突 戸全ての農場で導入している。導入する以前は、 2018年7月より本システムを活用し、今では ~250頭ほどで、 この委託事業は1 農場経営は悪くなった。 既に牛が死亡しているといった 本システム導入後、 総飼養頭数は1250頭 993年から実施され、 死亡事故の発生によ 生産者の負担が大き JA静岡経済 改善のため

# 機能とポイントの解説

飼槽や牛舎に擦ったり、 も故障する事なく利用できている。 への影響は見られなかった。加えて、 のではないかと懸念されたが、 着する。導入当初、 起立困難を知らせる通知はスマ 本システムは牛端末を牛の顎下に頭絡ひもで装 装着により餌が食べにくくなる 水槽の水で濡らしたりして 採食量は落ちず増体 トフォンのアプ

用しながら検証し、起立困難による事故で悩んでい る実証農場でもある。 る農場へ紹介していきたいと考えている。 県内の7戸の委託農場は飼料や飼養管理に関す うしらせの実用性を今後も利

なった。

の補給や出荷月齢を早めるといった対策も可能に

は再度倒れる事が多く、

通知をきっかけにビタミン

知が来たのかを把握する事ができる。

一度倒れた牛

上で記録として残るため、どの牛が何度倒れて通

09 ちくさんクラブ21 Vol.128 2020 06 ちくさんクラブ21 Vol.128 2020 06  $\phantom{0}08$